

【岐阜女子大学】メタデータ記述用紙

	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	沖縄の水源
3	資料名	与座ガー
4	内容分類	自然・景観
5	索引語	生活文化、水源、湧水、与座ガー、拝所
6	説明	<p>【与座ガーとは】</p> <p>しかし、湧水量は戦前の2分の1に減少したといわれてい。与座ガーの湧水は糸満市与座集落の西側にあり、沖縄中南部では最も高い与座岳（標高168.4m）や八重瀬岳などに降った雨が3年かけて石灰岩を通して地下水となって湧き出ている。現在の与座ガーの1日の湧水量は約2,500トンで、今も湧き口からは切れ目なく清水がわき出て水溝を流れ、広い洗い場へとつながっている。</p> <p>【与座ガーの歴史】</p> <p>与座ガーは三山時代に地域の豪族（按司；あじ）の戦いの死者を埋葬する墓をつくるために掘ったところ、湧水が噴出して発見された。発見した当初、湧き口には与座ガーヌ大石とよばれる大石が被さっており、現在は道を挟んだ鍛冶屋の屋敷の一角に祀られている。</p> <p>与座ガーは昔から与座の人々の重要な水源で、どのようなひでりでも枯れることはないといわれていた。太平洋戦争後、与座ガーはアメリカ軍の水源「ワーラーポイント」（水揚場）として利用され、区民は立ち入ることができなかった。その後、約30年におよぶ水源解放運動によって与座区の人々に返還された。</p> <p>現在も区民に大切に受け継がれ、旧暦の3月・5月・6月の15日には、門中で行うウチマー（祭祀）でカーウガミ（井戸拝み）をし、先祖が飲んでいた与座ガーの湧水に感謝し、五穀豊穰や子孫繁栄などを祈る行事が執り行われる。また、旧正月のウカミジ（若水）や産湯に使う水を汲むンブガー（産井泉）でもあり、与座区民の共同井戸として生活に深く関わっている泉（カー）である。</p> <p>【与座ガーの拝所】</p> <p>現在、与座ガー付近は糸満市によって「与座公園」として整備されており、公園内の拝所には与座岳を水源とする信仰の対象として「湧泉」「大御泉」「古泉」が祀られている。</p> <p>右側から現在は利用されていない古泉と大御泉、一番左は与座ガーの水神を祀っており、沖縄で泉（カー）を奉っている地域には欠かすことができない神聖な場所である。</p>
7	形式	静止画（jpg）
8	氏名	
9	時代・年	撮影日：2017/7/28
10	地域・場所	撮影場所：沖縄県糸満市与座 379

11	利用条件	表示 4.0 国際 (CC BY 4.0)
12	関連資料	
13	権利者	岐阜女子大学
14	協力者	なし
15	登録日	2021/12/17
16	登録者	
17	ファクトデータ	circd0749-0035. jpg
18	サムネイル	
19	公開の可否	公開可
20	* 特色	<p>【沖縄の泉（カー）】</p> <p>環境省「湧水把握件数」によると沖縄には約 1200 ヶ所の泉（カー）が点在している。その多くが現在も拝所になっており、沖縄で泉（カー）を奉っている地域には欠かすことができない神聖な場所である。</p> <p>また、泉（カー）は石積みされていて、昔は地域の人々の出会いの場であり、情報交換の場であった。泉（カー）に集まった人々は話をしながら水をくんだり、野菜や洗濯物、農具を洗うなど、コミュニケーションの場として地域で大切に受け継いできた。</p> <p>沖縄に湧水が多い理由は、沖縄本島が数万年前に海中の珊瑚が堆積し隆起してできた琉球石灰岩（地層）の台地であり、琉球石灰岩は水を通しやすい特徴をもち、浸み込んだ水がその下にある泥岩など水を通さない地層との境目から湧き水となって、染み出てくるからといわれている。</p> <p>* 環境省, 「沖縄県の湧水把握件数」, https://www.env.go.jp/water/yusui/result/sub4-1/PRE47-4-1.html, (アクセス 2021/12/17)</p>
21	* 活用支援	
22	* 利用分野	教育、生涯学習、地域学習
23	* 改善結果	
24	* 処理プロセス	
25	機関外リンク情報	
26	目標	
27	紹介	